

# 第3学年 美術科

## 1 年間学習計画

学期	月	単元	内容	教科書・教材等
前期	4 5 6 7	授業開き「3学年の美術とは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>素直な心で提示されたことに対して取り組むことができる。</li> <li>3年間で学んだ基礎の復習をする。</li> <li>人間の能力を理解し、活用できるよう目標をたてることができる。</li> </ul>	<教科書> 学びの深まり 美の探求 (日本文教出版)  <副教材> 感じる表す美術 東京都版 (浜島書店)
		～鑑賞・知識～ 『古今東西の世界遺産』	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行で訪れる京都の建築物、西洋の代表的な建築物をあげ、世界遺産を紹介する。</li> <li>日本と世界の世界遺産を鑑賞し、美の基準やその多様性の歴史的な変化に接し、日本の文化や伝統を考える。</li> <li>東洋・西洋の伝統の中で発展した文化遺産について理解を深める。</li> <li>日本の美術の特色や魅力と世界各国の美術の特色や魅力の違いを理解し、それぞれの時代背景と美術史を知る。</li> </ul>	
		～デザイン～ 『ステンドグラス』	<ul style="list-style-type: none"> <li>削り出しの表現を工夫し、自分らしさを学ぶ。</li> <li>削り出した所の色の組み合わせや配色を知る。</li> <li>ステンドグラスに光を通した時の効果を理解し、美しさを感じ取る。</li> </ul>	
後期	8 9	～デザイン～ 視覚伝達「ポスター」 (キャリア教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝達機能としてのデザインの役割を知り、テーマを図案化する。</li> <li>知識として得た色の効果を考え、平塗りの技能を生かし、美しく平面制作を行う。</li> <li>社会の諸問題について考えることで社会参画している一員としての自覚をする。</li> <li>人に訴えかけるメッセージを作品に託すことで自らの意見を他者に表明、表現する。またお互いの作品を鑑賞しながら自分の言動が他者の与える影響について理解することや、双方の個性を尊重する。</li> </ul>	
		～鑑賞・知識～ 「日本彫刻と世界の彫刻」 「仏像の造形美」	<ul style="list-style-type: none"> <li>彫刻の起源や歴史について学び、表現の変化に気づく。</li> <li>日本の彫刻の特色や魅力と世界各国の彫刻の特色や魅力の違いを理解する。それぞれの時代背景と美術史を知る。</li> <li>道具の使用法や注意すべき点について学び、習得する。</li> <li>さまざまな仏像を鑑賞し、そのよさや美しさ創造力の豊かさを感じ取り味わう。</li> </ul>	
後期	10 11	～デザイン、工芸、彫刻～ 『木彫』	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形材料としての木の魅力や可能性について理解を深め、彫刻の技術の活用し、生活に潤いのある工芸品を制作する。</li> <li>造形的な美を意識した作品作りを行う。</li> </ul>	
		～鑑賞・知識～ ジャポニスム 「国境を越える美術」	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代や社会の変化、諸外国との交流に着目し、日本文化の伝統を理解する。</li> <li>印象派の画家たちが日本文化(浮世絵や工芸品)と出会い、感銘を受けた時代背景と日本文化の特徴を理解する。</li> </ul>	
	12 1 2	～工芸・デザイン～ 「ポップアップカード」	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業を控え、15歳の今の自分を支えてくれている周囲の人への感謝を考え、その気持ちを伝える大切さを知る。</li> <li>制作者から受け取った側への気持ちになってカードをつくる。</li> <li>平面から立体へ変化するカードの面白さや表現の可能性の広さを感じ、制作へつなげる。</li> </ul>	
		～鑑賞～ 「他者の作品の相互評価」	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の作品のよいところを見つけ、メッセージカードを書き、伝える。</li> </ul>	

## 2 観点別評価・評定・具体的な手立て

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	定期考査 作品 作品説明プリント	定期考査 作品・レポート・作品説明プリント プリント(鑑賞) アイディアスケッチ、下絵	学習をすすめる中で身の回りのものに興味関心をもち、制作への意欲へとつながられる。作品へのまじめな姿勢。 提出物、授業準備、机上の整頓、発表
評価規準例	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。</li> <li>表現方法を創意工夫し、創造的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な表現の手段や方法を習得する。</li> <li>制作の見通しを立てて、自分の表現に必要な材料や技法を選んで有効に利用する。</li> <li>独自の表現をするための工夫をする。</li> <li>美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさを感じ取り味わい理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富なアイディアで、内容が変化に富んでいる。</li> <li>アイディアの内容が目標にあっている。</li> <li>アイディアの中から、意図にあった最良のものを選ぶ。</li> <li>制作の見通しを立てる。</li> <li>完成した作品の相互評価で、お互いの良さを発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して粘り強く、自ら学ぼうと意欲的に表現活動に取り組む。</li> <li>授業中、私語なく集中して取り組む。</li> <li>身近な制作しやすく整理する。</li> <li>提出物は期限を守って確実に出す。</li> <li>授業に必要なものを事前に準備し、計画的に制作をすすめる。</li> <li>様々な課題にすすんで取り組む。</li> </ul>

## 3 アドバイス

(1) 授業中に心がけること <ul style="list-style-type: none"> <li>道具の扱いに注意し、使い方を理解して使いこなせるようにする。</li> <li>説明をよく聞き、作業過程を把握し、計画性を持って作業を進める。</li> <li>丁寧にじっくり集中して作業する。</li> </ul> (2) 家庭で心がけること <ul style="list-style-type: none"> <li>忘れ物をしないように準備をしっかりする。</li> <li>短時間のクロッキーなどを繰り返し練習する。</li> </ul> (3) 普段の生活で心がけてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な芸術作品に興味・関心をもつ。</li> <li>図書やインターネットなどで有名な芸術作品について調べる。</li> <li>美術館や博物館などで本物の芸術作品に触れる機会をできるだけ増やす。</li> </ul>
---